



Generalized Science of Humanity

GSH

第3回
総合人間学
国際シンポジウム

先端科学と
人間らしさ

平成19年1月13日[土]

東京外国語大学
アジア・アフリカ
言語文化研究所
大会議室

[プログラム]

13:00

[開会の辞] 峰岸真琴 (東京外国語大学・AA研)

13:15 講演①

テクノロジーが拓く人間の可能性

生駒俊明 (科学技術振興機構・研究戦略センター長)

14:15 講演②

儒教から見る人間の理想的なあり方

楼宇烈 (北京大学・宗教研究所所長)

通訳: 小川隆 (駒沢大学教授)

15:30 講演③

ことばと自然

中谷英明 (東京外国語大学・AA研)

16:30 パネル・ディスカッション

司会 日高敏隆 (総合地球環境学研究所所長)

パネリスト 生駒俊明・楼宇烈・丘山新・中谷英明

17:50

[閉会の辞] 大塚和夫 (東京外国語大学・AA研)

○楼宇烈教授の講演は日本語通訳つき

○入場無料

○問い合わせ先

東京外国語大学

アジア・アフリカ言語文化研究所

東京都府中市朝日町3-11-1

TEL 042-330-5600



Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa

先端科学と礼と遊行

二十世紀のテクノロジーが、戦争を含む、人間の疎外と環境破壊という

大きな負の側面を背負っていたことは否めません。そのゆえに、より精密になり巨大化した

二十一世紀の科学技術は、新しい人間の可能性を拓くものとなることが期待されます。

このシンポジウムでは、現代科学技術の最先端を展望します。

そしてそれが実現するべき未来社会を考察するために、二千数百年来、文明社会の精神的かなめとなってきた儒教と仏教を再考します。

儒教の「礼」、仏教の「遊行」が描く人間の理想的な生き方には、今、いかなる意味があるのでしょうか？